



**African Studies Center**  
Tokyo University of Foreign Studies

**東京外国語大学  
現代アフリカ地域研究センター  
2025（令和7）年度活動報告**

**目次**

1. 概要
2. 活動実績
  - 2.1. 研究活動
    - 2.1.1. 学術ジャーナル刊行
  - 2.2. 教育活動
    - 2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献
    - 2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」
  - 2.3. シンポジウム・セミナー
    - 2.3.1. ASCセミナー
    - 2.3.2. ケープタウン大学アフリカ研究センターとのオンライン共同ワークショップ
    - 2.3.3. その他、協力イベント：AA研（椎野主催）
  - 2.4. 人的交流
    - 2.4.1. 研究者招へい
    - 2.4.2. 留学生招致活動
    - 2.4.3. 学生交流支援  
留学生交流会、オープンランチ
  - 2.5. 社会貢献、ネットワーキング
    - 2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）
    - 2.5.2. 韓国アフリカ学会との共同セミナー
    - 2.5.3. その他
  - 2.6. ウェブサイト、SNSによる情報発信
    - 2.6.1. センター公式ウェブサイト
    - 2.6.2. SNS（フェイスブック、ツイッター）
    - 2.6.3. メーリングリスト
  - 2.7. TReNDセンターとの協働
3. センター関係者リスト
4. 活動記録
  - 4.1. ASCセミナー一覧
  - 4.2. 主催・協力イベント一覧
  - 4.3. 主要来訪者一覧
5. センター教員・研究員の業績
  - 5.1. 研究活動
    - 5.1.1. 著作（単著・共著・編著）
    - 5.1.2. 論文
    - 5.1.3. エッセイ、その他
    - 5.1.4. 学会・シンポジウム
    - 5.1.5. 一般向け講演
    - 5.1.6. 企画・運営・事務局等
  - 5.2. 教育活動

- 5.2.1. 本学内における今年度担当授業
- 5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動
- 5.2.3. 修士・博士論文指導
- 5.3. 対外活動、社会貢献
  - 5.3.1. 外部機関からの委託業務
  - 5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応
- 5.4. 外部資金の獲得
  - 5.4.1. 代表者
  - 5.4.2. 分担者
- 5.5. 受賞

別添

ASCセミナーチラシ一覧

その他

## 1. 概要

現代アフリカ地域研究センターの役割は、学内におけるアフリカ関係の研究と教育を繋いで双方の好循環を促し、同時にアフリカ研究を核としたネットワークの構築、強化を通じて、内外のアフリカ研究・教育のハブとして機能することである。発足から9年が経過し、本センターのこうした役割も徐々に制度化され、ハブとしての地位も確立されてきた。

2025年度の新たな展開としては、武内センター長が学際研究共創センター（TReNDセンター）サステナビリティ研究部門の責任者になったことに伴い、同部門が実施する大学院生渡航支援事業の実務を本センターが担当することになった点が挙げられる。この事業は広く本学大学院生の海外渡航と研究成果発表を支援するもので、その対象はアフリカに限らないが、若手研究者育成支援という本センターのミッションに合致する。担当職員（森大介氏）が増員され、センターの活性化にも寄与した。

本センターの理想は、各センター教員の研究教育活動が有機的に結びつき、相乗効果によってその質が向上するとともに、全体を繋ぐネットワークが発展することである。各教員がそれぞれの業務に忙殺される中で簡単ではないが、教育、研究、ネットワークの相乗効果の萌芽は見られる。

本センターの教員は、本学大学院で学ぶアフリカ人学生やアフリカをテーマに研究する学生の研究指導を中心的に担っている。例えば、3人のセンター教員（佐藤、武内、出町）が関わる大学院博士後期課程の共同サステナビリティ研究プログラムでは、2019年の開始以降ナミビア、ガボン、セネガル、南アフリカ出身の学生が学位取得（または取得見込み）を果たし、現在もコンゴ民主共和国、ナイジェリア、モザンビーク、ジブチ出身の学生が学んでいる。また本学のPeace and Conflict Studies（PCS）Program博士後期課程では、ルワンダ、シエラレオネ、スーダン、南スーダン、カメルーン、ウガンダ、ジブチなどアフリカ諸国出身の学生が学んでおり、本センター教員が副指導を担当することも多い。彼らの研究は指導教員にとっても刺激的であり、共著論文に発展することもある。博士課程の学生の指導は研究との相乗効果を持ちうるし、彼ら、彼女らの存在は本センターにとって重要なネットワークの構成要素である。さらに、卒業生のネットワークも、本センターにとって非常に重要なものとなり得る。

教育研究の相乗効果は博士課程の学生に限らない。本学には日本で唯一学部レベルのアフリカ専攻が存在し、その学生たちと本センターとは緊密な関係を構築している。「アフリカン・ウィークス」などアフリカ専攻の学生が関わるイベントは本センターとしても積極的に広報しているし、ゼミの所属や留学時の協定校担当などによって関係はさらに深まる。本センターとしては、交換留学生の招致に努め、やってきたアフリカ人留学生が日本人学生と交流するきっかけを作ることが重要だと考えている。学生たちの関係作りを側面支援することは、長期的に見れば、貴重なネットワーク構築に繋がるし、教員にとっても学ぶところが多い。学部の交換留学生が、帰国後、奨学金を得て本学の大学院に正規の学生として入学するケースも複数あり、学部レベルでの日本を知るための交換留学の経験が、より長期的な日本留学のきっかけとなっていることも特筆される。

学部レベルの学生たちとの関係を深めることを意図して、今年度からインターンを採用することとした。幸い、日本人学生1名、アフリカ人学生1名から応募があり、当面は交換留学生のサポートを主たる任務として動いてもらっている。留学生交流会やウエルカム・オープンランチなど、本センターが主催するイベントにも積極的に関わってもらい、本センターと学生の距離を縮める役割を担ってほしいと考えている。

学部レベルで日本人学生とアフリカ人学生の交流を深めるという観点からは、今年度の「世界展開力強化事業（グローバルサウス）」に採択されなかったのは残念だった。最大限の努力を投入して申請書を作成したが、力及ばず採択とならなかった。今後は、トヨタ

ガーナ社が航空運賃を負担してくれているガーナ大学を除いて、協定校から留学生を招致するためにはクラウドファンディングの残金や企業の寄付金を使って航空券を調達するしかない。日本とアフリカの間で交換留学生を相互に交流させることは、本学の特色であり、長期的なネットワーキングの観点からも重要な意味を持つ。資金確保の努力は、今後も続ける必要がある。

アフリカに関する教育研究のハブになるという観点から、本センターでは従来から若手アフリカ研究者の育成に取り組んできた。これまでも、大学院生レベルを含めて研究発表の機会を何度か設けている。2025年度は、日本アフリカ学会に協力する形で、日本学術振興会の二国間交流事業に応募し、研究者育成の機会を提供した。韓国の全北国立大学校で開催された日韓共同セミナーに、この事業を利用して、日本アフリカ学会会員15名が渡航した。15名のうち9名は、アフリカ人3名を含む博士後期課程・ポストドクレベルの日本アフリカ学会会員で、公募で選抜された。セミナーは韓国アフリカ学会と日本アフリカ学会の交流事業として実施されたが、武内センター長が日本アフリカ学会会長を務めている関係で、本学で日本学術振興会の二国間交流事業を申請・獲得し、若手アフリカ研究者の渡航資金に充てたものである。

研究者育成の観点はもとより、ネットワークの充実や研究活動活性化の観点から特別研究員の活動は重要である。今年度は、ASC-TUFS Working Papers 2026への寄稿やASCセミナーでの発表など、特別研究員の活動が目立った。また、特別研究員の大石晃史氏がJICA緒方研究所に、加藤珠比氏が佐賀女子短期大学に採用された。本センターのネットワーク拡大の観点から、喜ばしいことである。

2025年度は、海外のアフリカ研究者と交流・協働する機会が多かった。6月11～14日にセネガルで開催された国際会議Africa-Asia 3: A New Axis of Knowledgeに、本センターから武内センター長と佐藤教授が参加し、科研費（国際共同研究加速基金）のメンバーでパネルを組んだ。「アフリカ・アジア」と銘打たれたこの会議でもアジア諸国の研究者と交流する機会が多かったが、特に韓国のアフリカ研究者との交流が進んだ。秋には上記の二国間交流事業の枠組で韓国アフリカ学会との関係が深まり、2月には武内センター長が釜山外国語大学校で開催された国際会議に参加し、韓国のみならず中国や欧米から参加したアフリカ研究者と交流を深めた。ネットワーク拡大の観点から、有意義な1年だった。

アフリカ研究のネットワークを広げるには、一定の水準を持った研究事業を自前で持つことが大事である。その意味で、継続して刊行してきたASC-TUFS Working Papers やASCセミナーは、アフリカ研究者招へいとともにも本センターの中核的事業と言える。これらの事業の持続的な体制づくりに引き続き取り組んでいきたい。

最後に、従来からの課題であり、今後いっそう考えねばならないのは、企業との関係構築である。現在、トヨタガーナ社がガーナ大学からの交換留学生に対して年間2名分の航空券を補助してくださっている。また、矢崎総業とタカオカホールディングスからも寄付金を頂戴している。これらの寄付金はすべて、アフリカからの交換留学生招致に充てている。

昨年度、アフリカでベンチャーキャピタル事業を展開する株式会社ケップルグループから寄附講座の申し出があり、夏期集中講義で「新興国のスタートアップファイナンス」を開講した。同社に本学出身者がいたことが縁で開講となった。授業の反響は大きく、2026年度は春学期の授業として開講する。直接的に資金獲得に結びつくわけではないが、こうした形で企業との関係を維持することも重要であろう。どのような形で企業との関係を構築し、無理のない形で資金調達につなげるかについては、さらなる試行錯誤が必要だと考えている。

## 2. 活動実績

### 2.1. 研究活動

現代アフリカ地域研究センター・センター教員の2025年度活動実績は、下記5.1に示すとおりである。論文や研究報告はもとより、多数の研究代表プロジェクトを遂行するなど、活発な研究活動を行っている。

#### 2.1.1. 学術ジャーナル刊行

センターの刊行物として、『ASC-TUFS Working Papers Vol.6 (2026)』を発行した。これは、2020年度より定期刊行物となったワーキングペーパーで、第6号の刊行となる。編集委員会は下記のとおりである。第6号は7本の論文と1本のテクニカルレポートを掲載している。

編集委員長：武内進一

編集委員：大石高典、坂井真紀子、佐藤千鶴子、出町一恵、宮本佳和

事務局：柳田繭子

本ワーキングペーパーをJ-Stageに掲載したことで、世界各国からアクセス、ダウンロードがなされている。J-Stageの統計によれば、2025年4月～12月のダウンロード数は、米国からの4,837件を筆頭に、英国から1,178件、中国628件、シンガポール605件、日本374件、ブラジル251件、ドイツ240件、ガーナ203件、インド135件、カナダ131件、ルワンダ111件、ベトナム104件などで、全世界からのアクセスが記録されている。また、2025年3月に刊行した第5号のみならず、既刊の第1号～第4号に掲載された論文についても多数のダウンロードが確認できる。

### 2.2. 教育活動

#### 2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献

国際社会学部において、特任研究員の宮本佳和が以下の授業を行った。なお、科目2については、センター招へい研究者（秋学期）とともに行った。

科目1：アフリカ地域研究2/B

題目1：「アフリカ政治人類学」（秋学期15コマ）、方式は対面である。

科目2：国際協力論2

題目2：「モビリティ、移民、トランスナショナリズムの文化」（秋学期15コマ）、方式は対面である。

#### 2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」

日本貿易振興機構アジア経済研究所（IDE-JETRO）では、アジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この研修事業が「アイデアス」（IDEAS：IDE Advanced School）で、1990年以来の歴史がある。2018年度から、本センターが大学院研究科とアジア経済研究所の間を繋ぐ形で、本学学生をアイデアスに参加させ、大学院総合国際学研究科で単位認定する試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたアイデアス事業に、今年度は大学院生1名と学部生1名が参加した。

### 2.3. シンポジウム・セミナー

#### 2.3.1. ASCセミナー

ASCセミナーは、公式ウェブサイトやSNSに加えて本センターが開設したメーリングリスト（2.6.3参照）を用いて広報している。2025年度は、下記4.1に示すとおり、10回のセミ

ナーを開催し、通算回数は111回となった。開催方式は第102回が対面のみ、それ以外はハイブリッドであった。今年度開催した10回のうち、6回が国際セミナーであった。別添にASCセミナーのチラシを付す。

### 2.3.2. ケープタウン大学アフリカ研究センターとのオンライン共同ワークショップ

2025年12月4日、11日の2日間にわたり、国際共同ワークショップ「Second Workshop on African State-building: Actors, Actions, Performances（アフリカ国家建設の比較研究：担い手、手法、成果・第2回ワークショップ）」を開催した。ケープタウン大学アフリカ研究センターをパートナーとする国際共同研究加速基金（海外連携研究）の同名の研究プロジェクトに基づくもので、以下のメンバーが参加した。

氏名	所属
Amanor, Kojo	University of Ghana
Aminaka, Akiyo	IDE-JETRO
Bam-Hutchison, June	University of Johannesburg
Chitonge, Horman	University of Cape Town
Miyamoto, Kana	Tokyo University of Foreign Studies
Nhemachena, Artwell	University of Namibia
Sasaki, Kazuyuki	Protestant University of Rwanda
Sato, Chizuko	Tokyo University of Foreign Studies
Takeuchi, Shinichi	Tokyo University of Foreign Studies
Tomomatsu, Yuka	Hosei University
Van Niekerk, Robbie	University of the Witwatersrand
Vawda, Shahid	University of Cape Town

### 2.3.3. その他、協力イベント

#### a. KU-TUFSセミナー

KU-TUFSセミナーは、本センターと京都大学アフリカ地域研究資料センター（CAAS）との共催で開催される企画である。今年度は以下のとおり開催された。

#### ◆第22回セミナー

11月20日 “Lost in the Madding Crowd: Accelerated Adulthood of Ethiopian Migrant Children in South Africa.” 講演者：ヘンリエッタ・ニヤムンジョ（センター招へい研究者）

#### b. 「沖縄県宜野座村×カメルーン 2025地球たんけんたい ようこそ、いのちの森へ！」

大石高典准教授が一般向けの参加型・体験型ワークショップ「アフリカの森で歌おう！」（7月27日）、「とどけよう！宜野座のものがたり」（7月28日）で講師を務めた。

#### c. TICAD9パートナー事業

武内進一センター長がTICAD9パートナー事業：サヘル地域協力セミナー（JICA主催、8月1日）に登壇し、「不安定化するサヘル諸国と国際協力」と題する講演を行った。さらに、JICA主催のTICAD9セミナー「日本・アフリカ間の海を越えた大学間交流・連携の経験および展望」（8月20日）に登壇した。

- d. 「沖縄×アフリカ—音楽と映像で共鳴・共感する沖縄とアフリカ」(10月19日)  
椎野若菜教授が沖縄とアフリカから3名のアーティストを迎え、音楽と映像の協演を通じて沖縄とアフリカについて考える会を開催した。
- e. TUFSシネマ「採集する人々」(10月25日)  
大石高典准教授が映画「採集する人々」の上映会を企画し、上映後の解説／トークセッションの進行を務めた。
- f. 展示会「レジリエント・ライフ：強制撤去からの帰還と再建」(11月20日～12月7日)  
椎野若菜教授とセンター特別研究員のキティンジ・キニユア博士らが企画した展示会が、本学アジア・アフリカ言語文化研究所で開催された。  
展示期間には、同展示開催記念ワークショップ「アフリカのスラムの事例から大学生が「レジリエント・ライフ」を考える」(11月25日)、ならびに展覧会記念シンポジウム「強制立ち退き、都市のインフォーマリティ、そして都市の'hustling」(12月6日)も開催され、本センターが協力団体となった。
- g. 「カラハリ狩猟採集民写真展—フィールドで記録した1992～1996年の暮らし—」(11月22日～24日、1月20日～28日)  
中川裕教授がフィールドワークの際に撮影した写真をもとにした写真展を開催した。写真展開催期間中の1月24日には「音の有標性を超えて—グイ語内部から音の珍しさ・周縁性・脆さを読み直す—」と題する最終講義が行われた。
- h. 「神戸で世界を旅しよう！ 2026地球たんけんたい」  
大石高典准教授が参加型・体験型の異文化理解ワークショップ「アフリカの森で歌おう！(カメルーン)」(2月15日)で講師を務めた。
- i. AA研フォーラム “Breaking Barriers, Building Safer Campuses: A Scoping Review of Sexual Violence in Higher Education in Africa and Asia.” 講演者：フローレンス・ムハングジ・キョヘイルウェ博士(マケレレ大学、AA研招へい研究者)(2月19日)  
椎野若菜教授が中心となって組織した講演会に、本センターが協力団体となった。

## 2.4. 人的交流

### 2.4.1. 研究者招へい

2025年度は2名の研究者を北米ならびにアフリカから招へいした。

a. ジョン・ムガネ (John M. MUGANE)

所属・役職：ハーバード大学・教授

招へい期間：2025年6月11日～8月1日

講演活動：

6月26日第103回ASCセミナーで講演 "Where Africa's people Speak: African Languages in Thought, Work, and Life"

7月18日上智大学で講演 "Reconsidering Ngugi wa Thiong'o in Contemporary Africa: Urban Vernaculars and the Linguistic Agency in Youth Cultures"

b. ヘンリエッタ・ニヤムンジョ (Henrietta NYAMNJOH)

所属・役職：ケープタウン大学・研究員

招へい期間：2025年10月1日～2026年1月31日

教育活動：

国際社会学部秋学期講義「モビリティ、移民、トランスナショナルリズムの文化」

講演活動：

11月14日第108回ASCセミナーで講演 "Waithood in Motion: Imagined futures, (im)mobilities and waiting among Cameroonian and Ethiopian migrants"

11月20日京都大学で講演 "Lost in the madding crowd: Accelerated adulthood of Ethiopian"

migrant children in South Africa"

11月21日広島大学で講演"I thought I belonged, but I was abandoned to myself": Truncated belonging in times of marital crisis among the Ethiopian female migrants in South Africa"

11月25日神戸大学で講演"Hope and Hardship: Hometown Associations, Religion, and the Paradoxes of Migrant Optimism in Cape Town"

#### 2.4.2. 留学生招致活動

交換留学の枠組では、4月にザンビア大学から2名が来日し、7月まで滞在した。また、9月末にルワンダ・プロテスタント大学から2名、ヤウンデ第一大学（カメルーン）から1名が来日し、2026年度春学期まで滞在予定である。今年度に募集があった「世界展開力強化事業（グローバルサウス）」に応募したが、残念ながら採択に至らなかった。そのため、今年度受け入れた5名の航空チケットは、全て昨年度実施したクラウドファンディング事業から支出した。クラウドファンディングを毎年のように実施することは現実的でないため、留学生招致を可能にする安定的な資金源を模索する必要がある。

#### 2.4.3. 学生交流支援

受入交換留学生在が充実した留学生活を送れるよう、センターとして、到着、帰国時のサポートから日常的な相談まで、様々な支援を行っている。本センターのホームページに受入交換留学生在個人毎のページを作り、日本での活動を紹介している。日本人学生との交流促進を目的として、毎月1回昼休みに交流会（オープンランチ）を開催し、特に学期初めにはアフリカ専攻の日本人学生や学内のアフリカ出身留学生在に広く呼びかけて、新たにやってきた交換留学生在が接点を作る機会を設けている。また、学内の学生に加えて、クラウドファンディングの支援者など広く市民との交流を図るため、留学生交流会を開催している。2025年度は、ザンビア大学からの留学生在が春学期しか滞在しないことから、留学生交流会を4月と10月の2回開催した。参加者数は、それぞれ59名、87名と盛況だった。

### 2.5. 社会貢献、ネットワーキング

アフリカ研究のハブとして、本センターはネットワーク形成と社会貢献に力を入れている。いずれも、研究と教育の好循環を生み出すために重要な役割を果たすと考えている。センターとしての活動もあれば、センター教員としての活動（例えば、下記5.1.5.や5.3.参照）もあるが、個々のセンター教員の活動もセンターのネットワーク構築に資する。以下、今年度の主要な活動を挙げる。

#### 2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）

本学は、2024年度から日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）の副議長校を務めている。2021～23年度は議長校を務めたが、2024年度から京都大学が議長校となり、長崎大学と本学が副議長校となった。2026年1月8日に運営委員会、2月13日に総会をオンラインで開催した。

#### 2.5.2. 日本アフリカ学会による韓国アフリカ学会との共同セミナー

2024～25年度は、武内センター長が日本アフリカ学会（JAAS）の会長を務めるなど、本センター・センター教員のうち3名がJAASの理事を務めた。JAASは2024年に韓国アフリカ学会（KAAS）とMoUを結び、相互交流促進に努力していることから、2024年度に本学から日本学術振興会二国間交流事業に応募した。幸いそれが採択され、2025年度に共同セミナーが実現した。

KAASが年2回開催している学術大会の一つを共同セミナーに充てる形で、2025年10月31日～11月1日の2日間、[KAAS International Conference] A Special Collaboration with JAAS: Furthering Asian Reference of Africa Studiesと題して、全北国立大学校（全北市）で開催された。プログラムを別掲する。

このセミナーに対して、二国間交流事業の資金を利用する形で、JAAS会員15名（うち2名は本センターの特別研究員加藤珠比氏とキティンジ・キニユア氏）が参加した。JAASとKAASの交流を、本センターが中心になって獲得した二国間交流事業が下支えした形である。

### 2.5.3. 北東アジア・フランス語学術会議

2025年5月20日、フランス語圏大学機関（Agence universitaire de la francophonie: AUF）の主催による北東アジア・フランス語学術会議（Colloque «Francophonie Scientifique en Asie du Nord-Est»）が韓国、ソウルの淑明女子大学校（Sookmyung Women's University）で開催され、武内センター長が出席した。韓国アフリカ学会のCho Hwarim会長からの招へいを受けての出席であった。プログラムを別掲する。

会議はフランス語を使用した学术交流に関わるもので、韓国、中国、ベトナムなど幾つかのアジア諸国の大学関係者の他、日本のフランス語教育学会関係者が参加していた。アフリカ研究におけるフランス語圏諸国の重要性は改めて強調するまでもないが、「フランコフォニー」という概念の浸透とともに、フランスだけでなく広くフランス語圏を捉えてその文化的意義を検討するという問題意識が広がっている。そこには、学術分野における英語の支配力が圧倒的になるなかでの、AUF（またフランス政府）の戦略性も感じられる。会議では、フランス語やフランス文化はフランスに閉じたものではないとし、フランコフォニー研究の枠組でアジア・アフリカ研究と連携する重要性が繰り返し語られた。

### 2.5.4. Humanities Korea 3.0

2026年2月3～6日、韓国釜山市の釜山外国語大学校で、標記国際会議「African MZ Generation and Nexus Humanities: Africanity and Regional Dynamics in the Global Era」が開催され、武内センター長が出席した。Humanities Koreaは韓国の大規模なアフリカ研究プロジェクトで、韓国外国語大学校アフリカ研究所、釜山外国語大学校アフリカ研究所、全北国立大学校フランス・アフリカ研究所など、複数の大学校に置かれたアフリカ関係研究所が共同で運営している。

会議には、韓国のアフリカ研究者に加えて、中国、日本、ガーナ、チュニジア、ドイツ、アメリカなどから研究者が参加し、「アフリカのZ世代」を共通のテーマとして研究発表を行った。中国や韓国のアフリカ研究の水準が急速に上がっていることに改めて驚くとともに、若手研究者の育成を図ろうとする韓国のアフリカ研究コミュニティの姿勢が印象的であった。プログラムを別掲する。

### 2.5.5. その他アウトリーチ活動

本センターのメンバーは、従来から積極的にアウトリーチ活動を行ってきた。2025年度については、なかでも、大石准教授が沖縄県宜野座村で行った「地球たんけんたい」や、椎野教授が企画したケニアのスラム住居の展示「レジリエント・ライフ」などが、特筆される。いずれも大きな反響を集めた。

本センターの活動の活性化に伴って、外部からの問い合わせや要請も増えている。外務省、JICA、企業の依頼を受けて講演する機会も増えた。また、立川市など近隣の地方自治体からの依頼にも応えている。「今日のアフリカ」など、本センターによるアフリカに関する情報発信は、それ自身重要なアウトリーチ機能を持つと考えている。

## 2.6. ウェブサイト、SNSによる情報発信

### 2.6.1. センター公式ウェブサイト

2017年7月の公式ウェブサイトの設置以降、ホームページの閲覧件数は着実に増加している。ホームページは、2024年度に加筆した「ご寄附のお願い」の部分を、さらに閲覧してもらえるよう、2025年度末に「カテゴリ」を増やす形で改修した。表1に示すように、多数の記事を更新した。

表1. 公式ウェブサイト記事更新数内訳

センターHP (全て記事公開日を基準にカウント)											
	お知らせ・イベント			研究活動				今日の アフリカ	留学生招致		
	お知らせ	ASCセミナー	その他のイベント	研究成果	研究プロジェクト	招へい研究者	センター刊行物		留学生紹介	活動記録	その他
2025年4月	0	0	2	1	0	0	0	6	2	1	0
2025年5月	1	4	1	0	0	0	0	6	1	0	0
2025年6月	7	2	0	0	0	1	0	3	0	1	0
2025年7月	0	0	2	0	0	1	0	3	0	1	0
2025年8月	3	0	2	0	0	1	0	7	6	1	0
2025年9月	2	2	4	0	0	2	0	4	0	1	0
2025年10月	1	2	1	0	0	0	0	7	3	1	0
2025年11月	1	3	6	0	0	5	0	4	0	1	0
2025年12月	0	1	0	0	0	2	0	6	0	0	0
2026年1月	0	0	2	0	0	2	0	4	1	1	0
2026年2月	1	2	0	0	0	0	0	6	0	0	0
2026年3月	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
小計	18	16	20	1	0	14	1	57	13	8	0
合計記事数	89	36	36	76	12	24	5	800	23	38	15

※ 3月の集計データは2026年3月6日までのもの。

## 2.6.2. SNS（フェイスブック、ツイッター）

センターに関する最新情報についてはFacebook、X、インスタグラムといったSNSでも発信している。「今日のアフリカ」やセンターのセミナーやイベントなどを頻繁に発信することにより、各フォロワー数は2025年3月6日時点で、Facebookで1309フォロワー、Xで2773フォロワー、昨年度同時期からFacebookで65、Xで250増加している。インスタグラムは、314フォロワー。こうした地道な投稿作業により、センターのイベントなどをより広く周知することが可能になっている。今年度の投稿記事数などは、表2に示すとおりである。

表2 SNS 更新数内訳

X					フェイスブック				
	ツイート数	フォロワー	リツイート獲得数	いいね！獲得数	記事投稿数	ページのリーチ (Impression)	ページへのアクセス	ページへの新規「いいね！」	該当月フォロワー数
2025年4月	※無料アカウントの為、X統計非表示				7	4091	117	58	1243
2025年5月	—	—	非公開	—	11	3703	169	72	1246
2025年6月	—	—	—	—	14	5749	241	113	1246
2025年7月	—	—	—	—	10	5531	222	175	1247
2025年8月	—	—	—	—	11	4761	171	200	1249
2025年9月	—	—	—	—	10	7071	278	271	1253
2025年10月	—	—	—	—	16	6579	190	213	1260
2025年11月	—	—	—	—	21	5283	135	155	1260
2025年12月	—	—	—	—	9	5723	154	158	1265
2026年1月	—	—	—	—	5	3506	118	81	1270
2026年2月	—	—	—	—	7	2274	82	78	1273
2026年3月	—	—	—	—	2	1157	81	37	1307
<b>2025年度小計</b>	—	<b>2773</b>	—	—	<b>123</b>	<b>55428</b>	<b>1958</b>	<b>1611</b>	<b>1307</b>

Instagram					
公開月	記事投稿数	ストーリー/動画投稿数	リーチアカウント数	リアクション数 (※実際にサイトへアクセス等)	フォロワー数
2025年4月	2	1	333	7	143
2025年5月	8	14	2231	87	165
2025年6月	9	15	2433	108	206
2025年7月	7	10	1603	80	234
2025年8月	8	4	2372	169	247
2025年9月	4	7	1987	110	254
2025年10月	6	10	2342	121	260
2025年11月	11	11	6122	130	282
2025年12月	4	3	744	93	294
2026年1月	7	12	1786	129	311
2026年2月	4	5	991	41	312
2026年3月	1	1	159	6	314
<b>年度総計</b>	<b>71</b>	<b>93</b>	<b>23103</b>	<b>1081</b>	<b>314</b>

※3月の集計データは2026年3月6日までのもの。

※FacebookとXは基本的に同記事を投稿しているが、Facebookはセミナーをイベントとして作成したり、両者のインサイトページのカウントの方法が違ったりすることにより記事投稿数に差異が出ている。

※Xは2023年10月に規定が更新されたため、有償アカウントでなければ統計がとれなくなった。そのため、フォロワー数のみ統計を反映している。

### 2.6.3. メーリングリスト

2026年3月15日現在、日本人向けメーリングリスト登録者数は1,308名である。また、2020年末に作成を開始した外国人向けメーリングリストの登録者数は223名に達した。

## 2.7. TReNDセンターとの協働

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の採択に伴って、学内に研究支援組織として学際研究共創センター（TReNDセンター）が設立された。2025年度から、武内センター長がTReNDセンター・サステイナビリティ研究部門の責任者になったことに伴い、同部門の事業の実務を本センターが担当することになった。サステイナビリティ研究部門の事業として最も重要なのは、本学の大学院生に対する渡航支援事業である。大学院生に渡航費を提供し、研究力強化につなげる取り組みである。今年度の実績は、以下の通りである。

派遣学生氏名	博士／修士	派遣国	主要成果
Xiao Yao	博士	ルーマニア	学会研究論文発表
Jinrang Huang	博士	中国	学会研究論文発表
Ariadne Jourdan Fayao	修士	ブラジル 韓国	学会研究論文発表
Asiimwe Bruno	博士	オランダ	学会研究論文発表
鈴木 岳志	博士	ブラジル	学会研究論文発表
麻場 美利亜	博士	東ティモール	学会研究論文発表多数
小林 颯	博士	インド	
河野 智子	博士	フランス	学会研究論文発表 査読付き雑誌掲載など多数
村田 七海	博士	トルコ・英国	
本田 祐里香	博士	コートジボワール	査読付き雑誌掲載
網谷 晃樹	博士	韓国	学会研究論文発表
Tumburbaatar Batdulam	博士	モンゴル	
永野 杏奈	博士	英国	
松山 芳瑛	博士	スロベニア	査読付き雑誌掲載
大場 翠	博士	タイ	
Sakshi Narang	博士	インド	学会研究論文発表
Saure Kevin Brandon	博士	ドイツ	
Annet Banda	修士	ザンビア	
洪 朝暘	博士	韓国	学会研究論文発表

(2026年3月6日現在)

### 3. センター関係者リスト（2026年3月末現在）

センター長	武内進一
センター教員（兼担）	石川博樹、大石高典、坂井真紀子、佐藤千鶴子、椎野若菜、品川大輔、出町一恵、中川裕、中山俊秀、箕浦信勝、村津蘭
特任研究員	宮本佳和
特別研究員	Emmanuel Vincent Nelson Kallon、Kinyua Laban Kithinji、Dinah Ewuradjoa Achieng Ogara、林剛平、溝口大助、加藤珠比、ユン・オスン
事務局	伊藤奈緒、森大介、柳田繭子

インターン：山下ちひろ、Paul Kani Bahoya

運営諮問委員：落合雄彦教授（龍谷大学）、山田肖子教授（名古屋大学）

## 4. 活動記録

### 4.1. ASCセミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
102	2025年 6月11日	講演者: 杵淵ちひろ (キネブチ チヒロ) 氏 (コラ奏者)	『伝統楽器から知る西アフリカの音楽』	対面のみ開催 (40名) 主催: アフリカンウィークス2025実行委員会 共催: 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、東京外国語大学国際社会学部アフリカ地域専攻 協力: 学生団体Femme Café
103	2025年 6月26日	講演者: ジョン・M・ムガネ 教授 (東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター客員教授 / ハーバード大学 社会言語学教授)	"Where Africa's people Speak: African Languages in Thought, Work, and Life"	ハイブリッド方式 (対面25名、オンライン26名)
104	2025年 7月3日	講演者: 佐藤 千鶴子教授 (東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 教授・現代アフリカ地域研究センター)	『南部アフリカにおける国境を越えた人の移動の歴史と現在 ——4世代にわたるマラウイ移民の経験を通して』	ハイブリッド方式 (対面10名、オンライン35名)
105	2025年 7月10日	講演者: ユン・オスン博士 (東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター特別研究員)	『コーヒーが地理学を必要とする理由: アジアからアフリカへ意味をマッピングする』 "Why Coffee Needs a Geography: Mapping Meaning from Asia to Africa"	ハイブリッド方式 (対面14名、オンライン46名)
106	2025年 10月1日	講演者: 早川千晶 (はやかわ ちあき) 氏 「マゴソ・スクール」 主宰	『キベラスラムの人々と共に生きる』	ハイブリッド方式 (対面32名、オンライン114名)
107	2025年 11月6日	講演者: レイバン・キティンジ=キニユア博士 (東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター・特別研究員)	『ケニアのZ世代による2024年の抗議行動とその余波 ——民族的パトロネージの民主主義国における待機状態とデジタル・ストーリーテリング』 "Kenya's 2024 Gen Z Protests and the Aftermath: Waithood and Digital Storytelling in an Ethnic-Patronage Democracy"	ハイブリッド方式 (対面22名、オンライン46名)

108	2025年 11月14日	講演者: ヘンリエッタ・ニヤムンジョ博士 (ケープタウン大学・研究員、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・客員教授)	『動きの中の待機状態：カメルーン人およびエチオピア人移民の想像する未来、(非)移動性、待つこと』	ハイブリッド方式 (対面14名、オンライン44名)
109	2025年 12月17日	講演者: タワンダ・サチコニエ博士 / Dr. Tawanda SACHIKONYE (南部アフリカ・リエゾン・オフィス研究コンサルタント)	『アフリカのG20か、それともアフリカで開催されたG20か——南アフリカのG20議長国に関する概観』 "An African G20 or a G20 in Africa: A preliminary overview of South Africa's G20 Presidency"	ハイブリッド方式 (対面10名、オンライン42名)
110	2026年 1月28日	講演者: 中川 裕 教授 (東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 / 教授、言語学・コイサン語)	『カラハリ狩猟採集民の道具を観察する』	ハイブリッド方式 (対面30名、オンライン41名)
111	2026年 3月5日	講演者: ラファエル・ヴェアボイスト博士 ベルギーのアントワープ大学歴史学部ジュニアポスドク研究員および南アフリカのジョハネスバーグ大学人文学部上級研究員。	『「先住性」の多義性：南アフリカからの示唆』 "The many meanings of 'indigenous': lessons from South Africa"	ハイブリッド方式 (対面11名、オンライン38名)

#### 4.2. その他の主催・協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
主催	2025年4月25日	春のアフリカ留学生交流会2025	東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター
共催	2025年6月1日～14日	アフリカンウィークス2025	主催：東京外国語大学アフリカンウィークス2025実行委員会 共催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、東京外国語大学国際社会学部アフリカ地域専攻 協力：学生団体Femme Café

協力	2025年7月15日	ヤウンデ第1大学と東京外国語大学との間の交換留学プロジェクトに関するセミナー 「東京外国語大学とヤウンデ第1大学の交換留学：機会、課題、そして今後の展望」	【主催】 ヤウンデ第1大学
協力	2025年8月20日	「日本・アフリカ間の海を越えた大学間交流・連携の経験および展望」	TICAD9サイドイベント【主催】：JICA
主催	2025年10月24日	秋のアフリカ留学生交流会2025	【主催】 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
協力	2025年10月7日	アフリカ留学説明会	【主催】 TUFSS学生有志
協力	2025年10月19日	「沖縄×アフリカー音楽と映像で共鳴・共感する沖縄とアフリカ」	【主催】 東京外国語大学フィールドサイエンスcommons(TUFS Field Science Commons)
共同主催	2025年11月20日	KU-TUFSセミナー第22回／第140回 KUASSセミナー “Lost in the madding crowd: Accelerated adulthood of Ethiopian migrant children in South Africa”	CAAS/京都大学アフリカ地域研究資料センター 東京外国語大学/現代アフリカ地域研究センター
共催	2025年11月21日	““I thought I belonged, but I was abandoned to myself”: Truncated belonging in times of marital crisis among the Ethiopian female migrants in South Africa”	共催：広島大学・IPC、東京外国語大学/現代アフリカ地域研究センター
共催	2025年11月25日	“Hope and Hardship:Hometown Associations, Religion, and the Paradoxes of Migrant Optimism in Cape Town”	主催：神戸大学アフリカン・コンヴィヴィアリティ・センター 共催：神戸大学 国際文化科学研究科研究推進インスティテュート、神戸大学 文化人類学研究会、神戸大学 梅屋研究室、東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター、日本アフリカ学会 関西支部

協力	2025年11月22日	展示「レジリエント・ライフ」開催記念ワークショップ	主催・共催：TUFiSCo、東京工芸大学インタラクティブメディア学科野口研究室、日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科井本研究室 協賛・後援・協力：現代アフリカ地域研究センター、NPO法人FENICS
協力	2025/11/20～12/7	「レジリエント・ライフ：強制撤去からの帰還と再建」展示	主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、フィールドサイエンスコモンズ (TUFiSCo) Organized by: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Field Science Commons, Tokyo University of Foreign Studies 共催：東京工芸大学インタラクティブメディア学科野口研究室、日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科井本研究室 Co-organized by: Noguchi Laboratory, Department of Interactive Media, Tokyo Polytechnic University, Imoto Laboratory, Department of Architecture and Design, Faculty of Architecture and Design, Japan Women's University 広報協力：NPO法人 FENICS, 現代アフリカ地域研究センター Public Relations Support by: African Studies Center, TUFs and NPO FENICS
協力	2025年11月22日～24日	「カラハリ狩猟採集民写真展：1992-1996」	カラハリ写真展実行委員会
協力	2025年12月6日	展覧会記念シンポジウム 「強制立ち退き、都市のインフォーマリティ、そして都市の'hustling」 展示「レジリエント・ライフ」とAA研共同利用・共同研究課題プロジェクト「東部アフリカにおける'hustle'する若者たちの民族誌：その想像力と実践力」共催	主催：東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ (TUFiSCo) 共催：AA研共同利用・共同研究課題プロジェクト「東部アフリカにおける'hustle'する若者たちの民族誌：その想像力と実践力」共催
協力	2026年2月19日	【AA研フォーラム】フローレンス・ムハンゲジ・キョヘイルウェ氏講演“Breaking Barriers, Building Safer Campuses: Sexual Violence in Higher Education in Africa and Asia (A Scoping Review, 2015-2026)”	主催：AA研 協賛・後援・協力：現代アフリカ地域研究センター (ASC)

#### 4.3. 主要来訪者一覧

日付	来訪者名
2025年4月11日	島谷尚哉（IHIインフラシステム事業戦略本部戦略第2部部長）他3名
2025年4月11日	能勢芳和（ゼンショーホールディングス会長室 海外事業戦略部 海外新事業課シニアマネージャー）、川本聡（渉外本部ゼネラルマネージャー）、小久保拓也（会長室海外事業戦略部海外新規事業課）
2025年5月29日	奥村真紀子（JICAアフリカ部次長）、上田真弓（アフリカ部アフリカ第4課特別嘱託）、榊将乃介（アフリカ部アフリカ第4課主任調査役）
2025年7月10日	Didier Dacko（駐日マリ大使）、黒木大輔（前駐マリ日本国大使）
2025年11月4日	江頭海咲、川添眞之介（外務省アフリカ部アフリカ第二課）
2025年11月6日	関口昇（新AU大使）、仲條一哉（新ルワンダ大使）、内田浩行（新モーリタニア大使）
2025年11月18日	Philippe Peycam (International Institute for Asian Studies)
2025年12月3日	福島功（元在ルワンダ日本国大使館特命全権大使）

## 5. センター教員・研究員の業績

### 5.1. 研究活動

#### 5.1.1. 著作（単著・共著・編著）

- Soichiro SHIRAISHI, Peter ATEKYEREZA, and Wakana SHIINO eds. (2025) *Situated Career Choices: Student Identities and Agencies for University Education in Uganda*, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University
- Wakana SHIINO and Ian KARUSIGARIRA eds. (2025) *Between-ness in Contemporary African Sexualities: Traditions, Education, and Practices*, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies
- 椎野若菜（編）『コンセプトブック レジリエント・ライフ:強制撤去からの帰還と再建』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2025年
- Shinagawa, Daisuke (ed.) (2026) *Describing linguistic dynamism in Africa*. Tokyo: ILCAA. pp. vii+149
- 武内進一（編）『アフリカの国家建設——自分たちの国をつくる』白水社, 2026年
- Yun, Ohsoon (2025). *Asia Coffee Road*. ACC文化芸術教育総書1. 国立アジア文化殿堂（韓国）. ISBN 979-11-92402-81-9.

#### 5.1.2. 論文

- 石川博樹（2025）「19世紀中葉のエチオピアのシヨア地方におけるパンをめぐる変化をその背景」『アフリカ研究』107: 27-38.
- Bila-Isia Inogwabini, RobertMoi`se, Takanori Oishi, VirginiaZaubrecher, Soh Wenda Boris Dinictri (2026) "Tapping into Indigenous and Local Knowledge in the Congo Basin to Increase Understanding of Its Ecology", In: *Resilience and Sustainability in the Congo Basin: Retracing the Past, Looking to the Future*. Bila-Isia Inogwabini, Bonaventure Sonke, Lydie-Stella Koutika, Lee JT White (eds.), pp. 2-29, Springer.
- 大石高典（2025）「書評：安岡宏和著『アンチ・ドムス——熱帯雨林のマルチスピーシーズ歴史生態学』京都大学学術出版会、2024年、480頁、¥3,200円+税」『アフリカ研究』（108）：68-71.
- KATO (YAMAUCHI) Tamahi, Lilian KAALE, Polgahagedara Don Pubudu SANJEEWA, KIKUCHI Yukiko, Andrew Charles FRIMGPONG, George Pindua, OHMORI Reiko, and SAKAMOTO Kumiko, "Food group intake and health of pupils in 4 primary schools in the rural areas of Morogoro region, Tanzania", *Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University*, No. 60, September 2025
- Tamahi Kato (Yamauchi), Lilian Daniel Kaale, "Lishe Practices and Perceptions of Nutrition in Mothers in the Morogoro Region of Tanzania", *African Studies Center Working Paper Vol. 6*, Tokyo University of Foreign
- Chizuko Sato, Scarlett Cornelissen and Tomohiro Hosoi (2025) "Risk Perceptions, Resilience and Evaluation of Government Policies During the COVID-19 Pandemic in South Africa: A Study of the Middle Class", In *Practical Wisdom and Resilience*
- 佐藤千鶴子（2026）「アフリカにおける難民と国家—その重層的関係」武内進一編『アフリカの国家建設—自分たちの国をつくる』、pp.275-300、白水社
- Shinagawa, Daisuke (2026) *The adverbial relativiser venye in Kenyan Colloquial Swahili as a recent morphosyntactic innovation*. In Shinagawa (ed.) *Describing linguistic dynamism in Africa*. Tokyo: ILCAA. pp.
- Shinagawa, Daisuke (2025) *Rwa (E621A), Uru (E622D), and Mkuu (E623C): Less-described varieties of Kilimanjaro Bantu (Chaga) languages*. In Marten, Lutz, Ellen Hurst-Harosh, Nancy C. Kula, and Jochen Zeller (eds.) *The Oxford Guide to the Bantu Languages*. Oxford: Oxford University Press. pp. 851-866.
- Lee, Seunghun J. and Daisuke Shinagawa (2025) *Phonetics of Voiceless Laterals in Five Southern Bantu Languages*. *Gengo kenkyu* 168: 57-76.

- Nassenstein, Nico and Daisuke Shinagawa (2025) Contact phenomena in major languages of wider communication from East and Central Africa. In Darquennes, Jeroen, Joseph C. Salmons and Wim Vandebussche (eds.)
- 武内進一 (2026) 「アフリカの国家と国家建設」 『アフリカの国家建設——自分たちの国をつくる』 武内進一 (編)、pp.15-37、白水社
- 武内進一 (2026) 「アフリカ国家建設の現段階」 『アフリカの国家建設——自分たちの国をつくる』 武内進一 (編)、pp. 301-321、白水社
- 武内進一 (2025) 「アフリカ諸国の国連投票行動——ロシア・ウクライナ戦争をめぐって」 『国際政治』 216: 128-142.
- 武内進一 (2025) 「フランスとルワンダ——対アフリカ外交の蹉跎と転換」 『日仏文化』 95: 33-42.
- Takeuchi, Shinichi (2024) Land Politics: How customary institutions shape state building in Zambia and Senegal by Lauren Honig. Cambridge: Cambridge University Press, 2022. pp. xv + 365. \$29.99 (Pb). The Journal of Modern African Studies 62(4): 377 – 378.
- Nakagawa, Hiroshi (2025) Frication noise in edentulous, in Ines Fiedler and Lee Pratchett (eds.) Areas, families, and pools aplenty. Berlin: Humboldt University, Berlin.
- 中川裕 (2025) 「SPEとクリック音韻分析の論争」 大谷直樹ほか編 『言語研究に潜む英語のバイアス』 109–130頁、ひつじ書房
- Yuki Goto, Nobuyuki Nawa, Toshihide Nakayama, et.al., Loneliness, but not social isolation, is a risk factor for COVID-19 vaccine hesitancy in university students in Tokyo, Japan. Scientific Reports 15(17562).
- 溝口大助 (2025) 「アフリカのライシテ論」、『アフリカのライシテ』 清水貴夫編
- ジュリアン・リース (2025) 『宗教の起源』 溝口大助・小藤朋保訳、江川純一監修、国書刊行会

### 5.1.3. エッセイ、その他

- 網中昭世、石川博樹、杉山祐子、溝辺泰雄、米田信子 (2025) 「日本アフリカ学会第61回学術大会公開シンポジウム報告「世界観を拓げるアフリカ史—アプローチを帰ると見えない(歴史)世界が見えてくる」 『アフリカ研究』 107: 39-43.
- 石川博樹 (2025) 「エチオピアの古都アクスムの籠細工 (「フィールドで出会ったモノ語り」第4回)」 『白水社の本棚』 2025年春号
- 大石高典 (2025) 「マンゴーの降る夜 [カメルーン] 」 『Globe Voice グローブヴォイス』 (13) p. 7. 東京外国語大学広報マネジメント・オフィス
- 大石高典 「カメルーンとエリトリアがパレスチナ国家を承認しない理由」 『今日のアフリカ』 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト、2025年9月24日
- 大石高典 「カメルーンにおけるカカオ栽培の拡大と「森林減少フリー製品規則」 (EUDR)」 『今日のアフリカ』 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト、2025年9月16日
- 大石高典 「アフリカへのStarlink進出の動向」 『今日のアフリカ』 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト、2025年8月26日
- 大石高典 「カメルーン大統領選挙2025：選挙戦前のつばぜり合い」 『今日のアフリカ』 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト、2025年8月15日
- 大石高典 「河童のアフリカ研究」 連載、俳誌『氷室』 2025年4月～2026年3月号
- Yun, O. (2025). On tiny cups: Tracing the invisible routes of coffee culture. The Newsletter, 101. International Institute for Asian Studies (IIAS).
- 武内進一 (2026) 「JICAホームタウン事業」 『現代用語の基礎知識2026』 自由国民社、p.30
- 武内進一 (2025) 「アフリカへの美術品返還とその背景——脱植民地化の新局面」 『アフリカ』 65 (2): 16-19.
- 武内進一 (2025) 「アフリカはどこに向かうか、日本は何をすべきか」 『国際問題』 725: 1-4.
- 武内進一 (2025) 「アフリカの将来像」 『日本経済新聞』 経済教室 (2025年8月1日) 35面.
- 武内進一 (2025) 「パネルディスカッション1：市民同士のつながりが変えたこと」 『アフリカNow』 128: 7-12. (稲場雅紀、津山直子、牧野久美子と)

- 武内進一 (2025) 「自著を語る：ジェイソン K. スターズ著、武内進一監訳、大石晃史、阪本拓人、佐藤千鶴子訳『名前を言わない戦争 終わらないコンゴ紛争』 木村大治・武内進一編著『コンゴ民主共和国を知るための50章』」
- 武内進一 (2025) 「原口さんの通夜」『アフリカ研究』108: 55-58.
- 溝口大助 (2025) 「ムブティの神」、『世界の神話・伝説文化事典』、松村一男・沖田瑞穂他 (編)、丸善出版
- 溝口大助 (2025) 「マリ帝国の神話」、『世界の神話・伝説文化事典』、松村一男・沖田瑞穂他 (編)、丸善出版
- 溝口大助 (2025) 「神明裁判の制度的相互行為」『裁判IT化科研ニュースレター』第五号 (研究課題番号23H00877)
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビア、初の女性大統領就任」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「共同宣言をめぐる論争、法廷へ」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビアの大学授業料廃止発表と「#FeesMustFall」」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビアのジェンダーに基づく暴力への抗議運動」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビア、初の「ジェノサイド追悼の日」を迎える」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビアの男性のメンタルヘルスと高い自殺率」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビアのオーケストラとおとぎ話」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビアの鉱山の町とアートセンター」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビア先住民から愛されたドイツ系移民死去」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ヘレロの故最高首長の生涯とナミビアの8月」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「南アフリカの婚姻後の姓と近代の矛盾」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「ナミビア・ドイツ合作ミュージカルの初演」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2025) 「南アフリカのGBVへの抗議活動と家父長制社会の綻び」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2026) 「南部アフリカにおける豪雨と深刻な洪水被害」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和 (2026) 「アメリカの人気動画配信者のアフリカツアー」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト

#### 5.1.4. 学会・シンポジウム

- 石川博樹 「インジェラはいつインジェラと呼ばれるようになったのか—19世紀のエチオピア中央部～北西部におけるパンの名称の変化に関する考察」、日本アフリカ学会第62回学術大会、京都大学、2025年5月18日
- 石川博樹 「ダボとアンバチャーエチオピアのキリスト教徒の2種の小麦パンに関する歴史学研究」、日本ナイル・エチオピア学会第34回学術大会、弘前大学、2025年6月29日
- 石川博樹 「エチオピアの人びとはなぜ「アフリカ史」を語ってこなかったのか—ソロモン朝期の歴史叙述の特色と「エチオピア例外論」を中心に」、国立民族学博物館共同研究 (若手) 「アフリカの人びとはいかに「アフリカ史」を語ってきたか—アフリカのローカルな歴史からみた「アフリカ史学史」」2025年度第2回研究会、国立民族学博物館、2025年9月21日

- 石川博樹 「19世紀のエチオピアにおけるパンケーキの名称の変化とその背景」、AA研フォーラム：全所プロジェクト「トランスカルチャー状況下における分極と共生の解明—アジア・アフリカの人々とともに作る人文知の「共有」と「対話」のプラットフォーム構築」2025年度研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2026年1月22日
- 石川博樹 「エチオピア南東部イスラーム概史—居住集団の変化に着目して」、「イスラーム考古学の新天地—エチオピア南東部の中世イスラーム遺跡群の最新研究」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2026年1月31日
- 石川博樹 「共同基礎研究「中世エチオピアのイスラーム物質文化に関する研究」2025年度活動報告」、AA研フォーラム「AA研共同基礎研究2025年度報告会」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2026年2月19日
- 石川博樹 「アフリカの主食の多様性と原料の変化—エチオピアのインジェラを中心として」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所公開シンポジウム「「主食」の変容と多様性—日本・東南アジア・アフリカをつなぐ比較 くらしと健康の視点から」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2026年2月22日
- 大石高典「ワークショップは終わらない—狩猟採集民の生をめぐる集合的創造」2025年度地域研究コンソーシアム公開シンポジウム「物語を生きる身体：地域研究と社会を架橋する共創的学び」京都大学東南アジア地域研究研究所、2025年11月15日
- Kohske Takahashi, Nobu Inazumi, Masaki Shimada, Takanori Oishi, Kun Qian, Xiaojie Tian "Face Perception Beyond Western Cultures: A Preliminary Study on Face-Part Identification" (Poster Presentation), 47th European Conference on Visual Perception (ECVP2025), Mainz, Germany, 2025年8月24日 - 2025年8月28日
- Takanori Oishi, "Student exchange program between TUFS and African partner Institutions: Objectives, achievements, and challenges" Conference on cooperation between Tokyo University of Foreign Studies (TUFS) and University of Yaounde I (FALSH): Opportunities, Assessment, and Perspectives, The University of Yaounde 1, 2025年7月15日
- KATO (YAMAUCHI) Tamahi, Lilian KAALE, Polgahagedara Don Pubudu SANJEEWA, KIKUCHI Yukiko, Andrew Charles FRIMGPONG, OHMORI Reiko, and SAKAMOTO Kumiko, 'Preliminary analysis on food group intake and health of pupils in 4 primary schools in the rural areas of Morogoro region, Tanzania', 日本アフリカ学会学術大会第62回学術大会、2025年5月18日
- 加藤珠比、「タンザニア・モロゴロ州におけるコミュニティ経済の可能性とその社会的背景—混合粥加工グループの例—」国際開発学会第26回春季大会、2025年6月21日
- Tamahi Kato (Yamauchi), 'Social and solidarity economy and community economy – focusing on community economy in Tanzania' Korean Association of African Studies Conference, October 31, 2025
- Tamahi Kato (Yamauchi), 'Social and solidarity economy and community economy – focusing on community economy in Tanzania', The 24th East Asian Seminar on the United Nations System, November 28, 2025
- Sakai, Makiko (2025), "Les multiples rôles des marchés locaux dans la région de l'Ouest du Cameroun - Une étude comparative avec la situation du Japon - ", in Conférence des activités commémoratives de la rentrée scientifique du CREGRISA (Centre recherche et d'Expertise en Gouvernance, Relations Internationales et Stratégiques en Afrique), l'Université de Dschang, Cameroun, au 10 mars 2025.
- Chizuko Sato 'Land Reform and State-building in Democratic South Africa', Africa-Asia 3 Conference-Festival: A New Axis of Knowledge, International Presentation, AA3 Organising Committee, Oral presentation (general), Cheikh Anta Diop University, Dakar, Senegal, June 12, 2025.
- 椎野若菜、展示「レジリエント・ライフ」開催記念ワークショップ 「ワークショップ アフリカのスラムの事例から、大学生が『レジリエント・ライフ』を考える」、会場：AA研303、開催：2025年11月22日(土) 14:00~16:30
- 椎野若菜、展覧会記念シンポジウム「強制立ち退き、都市のインフォーマリティ、そして都市の'hustling」展示室、2025年12月9日
- Shinagawa, Daisuke. Morphosyntactic features in an early Kingwana biblical text: Focusing on

- 'diglossic' variations, Workshop "Understanding linguistic difference: Speakers and their agency, awareness and language ideologies", Johannes Gutenberg University Mainz, 2026年1月23日
- 品川大輔「多言語大陸アフリカの語られ方：「普遍的価値」としての言語多様性をめぐるバイアスと現実」国立大学附置研究所・センター会議令和7年度第3部会シンポジウム，アジア・アフリカ言語文化研究所，2025年10月4日
- Shinagawa, Daisuke. 'moon' in Bantu, The first meeting ILCAA Joint Research Project 'Studies in Afro-Eurasian Geolinguistics', アジア・アフリカ言語文化研究所，2025年9月27日
- Marten, Lutz, Hannah Gibson, Shinagawa, Daisuke. Comparing focus and inversion constructions in Bantu languages, Syntax of the World's Languages X, University of Potsdam, 2025年9月10日
- Shinagawa, Daisuke. A long and winding road to Nairobi: Proto-Bantu \*-jéné 'self, same' and the emblematic relative pronouns in Kenyan Colloquial Swahili. Africa-Asia 3: A new axis of knowledge, Universite Cheikh Anta Diop, 2025年6月13日
- Shinagawa, Daisuke. A preliminary report on the statistic survey of inter-parametric covariation based on the Bantu morphosyntactic variation database. ILCAA Joint research project "Diachronic Perspectives on Language Description and Typology in Bantu," the 5th meeting. アジア・アフリカ言語文化研究所. 2025年5月24日
- Lutz Marten, Hannah Gibson and Daisuke Shinagawa. Co-variation in Bantu noun classes: Insights from the Bantu Morphosyntactic Variation database. SocioBaGS Workshop. Aix-Marseille Université. 2025年6月26日
- Takeuchi, Shinichi (2026) "Youth in African Politics: Gerontocracy in the Young Continent". Paper presented to Humanities Korea (HK) 3.0 Consortium International Conference. African MZ Generation and Nexus Humanities: Africanity and Regional Dynamics in the Global Era. (Tuesday 3 – Friday 6 February 2026) held at Busan University of Foreign Studies.
- Takeuchi, Shinichi (2025) "African State-building: Actors, Actions, Performances" a paper presented at Africa-Asia 3: A New Axis of Knowledge, Conference-Festival. 11-14 June 2025. Université Cheikh Anta Diop de Dakar, Senegal.
- 加藤幹治・中川裕「カラハリ狩猟採集民グイ・ガナの母語話者向け辞書：冊子からスマホアプリへ」日本アフリカ学会第62回学術大会，京都大学2025年5月18日
- Toshihide Nakayama and Fumino Horiuchi. Grammatically Incomplete Utterances as Interactional Resources: Turn Management with Structurally Dependent Utterances in Japanese Conversation. 19th International Pragmatics Conference. Brisbane. 2025.6.23.
- 中山俊秀。「AIが訳す時代に、なぜ私たちは日本語で心を通わせるのか—次世代に届ける言葉の本当の価値」日本研究・日本語教育国際シンポジウム—次世代に届ける日本語の魅力と可能性，ハノイ. 2025.8.23.
- Toshihide Nakayama. Navigating the AI Revolution: A Compass for Higher Education in the Humanities. Egypt-Japan University of Science and Technology. 2025.9.25.
- 溝口大助「『生ける』呪物の判じ」、日本文化人類学会地区研究懇談会、西南学院大学、2025年12月20日
- 溝口大助「神明裁判の制度的相互行為」、「裁判手続等のIT化の影響のビデオエスノグラフィ」科学研究会（研究課題番号23H00877）、ズーム形式、2025年6月14日
- 溝口大助「金鉞都市のレジリエント・ライフ」、「住まいと都市政策：インフォーマル居住区が映し出す社会課題」シンポジウム、東京工芸大学中野キャンパス、2025年3月22日
- Miyamoto, Kana "Negotiating the sacred: War, ancestral taboos, and wildlife conservation in north-west Namibia", Anthropology Southern Africa (ASnA) 2025 Conference, Rhodes University, South Africa, 20 August, 2025.
- Miyamoto, Kana "Re-imagining the Post-apartheid Namibian State: Ethnographical Approach to State-building", Second Workshop on African State-building: Actors, Actions, Performances, online, 4 December, 2025.
- 宮本佳和「搾取が出会う場所—ナミビアの水素プロジェクトと新植民地期主義」、エネルギー人文学研究会、2025年報告会、オンライン、2025年12月8日
- Yun, O. (2025年6月11日). "The second life of coffee: Ethiopia reimagined in Seoul and Tokyo."

- Africa–Asia: A New Axis of Knowledge 3 ConFest, Dakar, Senegal.
- Yun, O. (2025年6月29日). “After the Fieldwork: Reimagining Ethiopia through Coffee and Language.” 第34回日本ナイル・エチオピア学会年次大会 (JANES), 弘前大学.
- Yun, O. (2025年7月10日). “Why coffee needs a geography: Mapping meaning from Asia to Africa.” 第105回東京外国語大学アフリカ研究センターセミナー.
- Yun, O. (2025年10月11日). “Tracing the second life of Ethiopian coffee: Journey to Timor-Leste.” 日本アフラシア学会年次大会, 広島大学.
- Yun, O. (2025年11月17日). “From Ethiopia to Timor-Leste: Tracing the Living Heritage of Coffee.” Festival Kafé Timor 2025 Coffee Tourism Session, Dili Institute of Technology (東ティモール).

### 5.1.5. 一般向け講演

- 大石高典「アフリカの狩猟採集社会とテクノロジー」 東京都立小石川中等教育学校・分野別大学模擬講義（「国際関係」）、2025年12月19日
- 坂井真紀子「カメルーン西部州のローカル市場を訪ねて」、東京農工大学主催、高校生向け講座「GXサイエンスキャンプ」講演、2025年3月14日
- 佐藤千鶴子「南部アフリカにおける国境を越えた人の移動の歴史と現在—4世代にわたるマラウイ移民の経験を通して」、第104回ASCセミナー／日本アフリカ学会関東支部2025年度第2回例会、2025年7月3日
- 武内進一「アフリカ情勢をどう見るか」（2025年5月1日）外務省研修講義
- 武内進一「コンゴ民主共和国、ルワンダ、ウガンダ情勢」（2025年7月4日）出入国在留管理庁研修講義
- 武内進一「『国際問題』 ウェビナー「『アフリカを取り巻く課題の現段階』を論じる」2025年7月18日。国際問題研究所主催。ファシリテーター
- 武内進一「不安定化するサヘル諸国と国際協力」 TICAD9パートナー事業：サヘル地域協力セミナー（2025年8月1日）オンライン
- 武内進一「Introduction」 「東京外国語大学の経験」 日本・アフリカ間の海を越えた大学間交流・連携の経験および展望（TICAD9サイドイベント。2025年8月20日）（Beyond Oceans: Experiences and Prospects of Japan-Africa Inter-University）
- 武内進一「アフリカの歴史と未来—T I C A D」 （2026年1月10日。於立川市錦学習館）立川市生涯学習推進センター・市民協働課(主催)、特定非営利活動法人時事英語—アフリカと日本の絆（共催）。たちかわ市民交流大学。
- 中川裕「カラハリ狩猟採集民の道具を観察する」第110回ASCセミナー、東京外国語大学、2026年1月28日
- 中山俊秀. 「AI革命を乗りこなす—仕事と学びの未来を考える」国際交流基金カイロ日本文化センター，カイロ. 2025.9.24.
- Toshihide Nakayama. Navigating the AI Revolution: A Compass for Higher Education in the Humanities. Ain Shams University. 2025.9.24.
- 中山俊秀. 「言語の大量消滅?!—言語はなぜ消えるのか、何が問題なのか」愛知大学. 2025.10.8.
- Yun Ohsoon, 2025年5月14日–21日 国立アジア文化殿堂（韓国・光州）「アジアコーヒーロード」西アジア編（イエメン、トルコ、サウジアラビア）各国2回、計6回講演。
- Yun Ohsoon, 2025年5月23日–25日 韓国・釜山 Global Yeongdo Coffee Festival 招聘講演「アラビカコーヒーの故郷エチオピア」、「エチオピア・コーヒーツアー」計2回講演。

### 5.1.6. 企画・運営・事務局等

- 大石高典（イベントの企画・運営に参加）「沖縄県宜野座村×カメルーン 2025地球たんけんたい 体験型ワークショップ「アフリカの森で歌おう！」」沖縄県宜野座村（令和7年度内閣官房事業万博国際交流プログラム参加自治体）、マナラボ 環境と平和の学びデザイン、東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）、日本学術振興会科学研究費基盤（C）「パフォーマンスによるフィールドの共創的再現：人類学的教育実践の協働と展開」（代表 飯塚宜子）、日本学術振興会科学研究費若手研究

「狩猟採集民バカの男性による養育と乳幼児の社会化」（代表 田中文菜） 令和7年度内閣官房事業万博国際交流プログラム関連事業 沖縄県宜野座村ふれあい交流センター 2025年7月27日

大石高典（イベントの企画・運営に参加）「沖縄県宜野座村×カメルーン 2025地球たんけんたい 体験型ワークショップ「とどけよう！宜野座のものがたり」」沖縄県宜野座村（令和7年度内閣官房事業万博国際交流プログラム参加自治体）、マナラボ 環境と平和の学びデザイン、東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）、日本学術振興会科学研究費基盤（C）「パフォーマンスによるフィールドの共創的再現：人類学的教育実践の協働と展開」（代表 飯塚宜子）、日本学術振興会科学研究費若手研究「狩猟採集民バカの男性による養育と乳幼児の社会化」（代表 田中文菜） 令和7年度内閣官房事業万博国際交流プログラム関連事業 沖縄県宜野座村ふれあい交流センター 2025年7月28日

大石高典、T U F Sシネマ企画・運営「パレスチナ映画特集『採集する人々』上映会」東京外国語大学TUF S Cinema、東京外国語大学国際社会学部大石高典ゼミ、TUF Sパレスチナ連帯活動、TUF Sフィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo） TUF Sシネマ 東京外国語大学 アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール 2025年10月25日

椎野若菜、【展示】レジリエント・ライフ：強制撤去からの帰還と再建@TUF S、会場：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2025年11月20日(木)～12月7日(日)

椎野若菜、FENICSサロン「なぜあのか『就職』しなかったのか—進路・研究・キャリア・男女共同参画の視点から」主催・企画： NPO法人FENICSと東京外国語大学学部生。登壇者： 二井彬緒（東大）、對馬果莉（埼玉大）、椎野若菜（東京外大） 2025年7月15日

椎野若菜、ギースシンポジウム 「アーリーキャリアの声から—アカデミアのジェンダー平等を再構築する」2026年2月28日（土）。コメンテーター：椎野若菜

椎野若菜、AAフォーラムフローレンス・ムハンゴジ・キョヘイルウェ氏講演 'Breaking Barriers, Building Safer Campuses A Scoping Review of Sexual Violence in Higher Education in Africa and Asia'AA研304, 2026. 2.19

中川裕・新唯人・荒川佳奈・岡田万理・木村理瑞「カラハリ狩猟採集民写真展：フィールドで記録した1992～1996年の暮らし」第1回：2025年11月22日～24日

## 5.2. 教育活動

### 5.2.1. 本学内における今年度担当授業

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究1	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究2	アフリカ歴史文化論	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
大石高典	世界教養プログラム	専攻言語（英語II-6）	アフリカ研究のための英語2	秋
大石高典	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎2	アフリカ地域研究入門2	秋
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究2	民族誌から学ぶアフリカの生活世界2	秋
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究演習4	フィールド人類学・地域研究II	秋
大石高典	国際社会学部	卒業研究演習2	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 2	秋
大石高典	国際社会学部	卒業研究	プロセスとしての卒業論文／卒業研究	通年
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18	生態人類学の理論と方法II	秋
大石高典	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	修士論文ゼミ（生態人類学）2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	専攻言語（英語I-9）	英語で学ぶアフリカII(E)	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語（フランス語B3）	フランス語で見るアフリカI	春
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語（フランス語B4）	フランス語で見るアフリカII	秋

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
坂井真紀子	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎1	アフリカ地域研究入門1	春
坂井真紀子	国際社会学部	地域社会研究入門2	地域研究入門	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究1	アフリカ農村社会学	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究2	アフリカと開発	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習1	アフリカ地域ゼミ	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習2	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業研究演習1	卒業論文演習Ⅰ	春
坂井真紀子	国際社会学部	卒業研究演習2	卒業論文演習Ⅱ	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17	仏語圏アフリカ地域研究Ⅰ	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18	仏語圏アフリカ地域研究Ⅱ	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	アフリカ地域研究ゼミ	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	アフリカ地域研究ゼミ(2)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	秋
佐藤千鶴子	国際社会学部	国際協力論1	国際人口移動論	春
佐藤千鶴子	国際社会学部	国際協力論2	難民保護の歴史・現在・課題	秋
佐藤千鶴子	国際社会学部	国際協力論演習1	移民・難民研究A	春
佐藤千鶴子	国際社会学部	国際協力論演習2	移民・難民研究B	秋
佐藤千鶴子	国際社会学部	卒業研究演習1	卒業論文指導(移民・難民研究)	春
佐藤千鶴子	国際社会学部	卒業研究演習2	卒業論文指導(移民・難民研究)	秋
佐藤千鶴子	国際社会学部	卒業研究		通年
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17	難民・強制移動研究	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18	アフリカにおける移民と難民	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ	修士論文指導	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ	修士論文指導	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎A	サステナビリティ研究基礎A	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎B	サステナビリティ研究基礎B	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	サステナビリティ研究先端演習III	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	サステナビリティ研究先端演習III	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習IV	サステナビリティ研究先端演習IV	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習IV	サステナビリティ研究先端演習IV	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
佐藤千鶴子	総合国際学研究科	学内実践実習	学内実践実習	春
椎野若菜	国際社会学部	アフリカ地域研究1	アフリカ人類学：ジェンダー・セクシュアリティ、家族・親族、若者に注目して	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドサイエンス	社会人類学の調査研究：ジェンダー・セクシュアリティ、家族・親族、若者、ア	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
椎野若菜	総合国際学研究科	実践研究 1 修士論文修士研究ゼミ 1	フリカに注目して 修士論文のためのジェンダー・セクシュアリティの人類学(1):アジア・アフリカ地域	春
椎野若菜	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文のためのジェンダー・セクシュアリティの人類学(2):アジア・アフリカ地域	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 1	ジェンダー・セクシュアリティの人類学(1):アジア・アフリカ地域	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 2	ジェンダー・セクシュアリティの人類学(2):アジア・アフリカ地域	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語(スワヒリ語1)	スワヒリ語初級1	春
品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語(スワヒリ語2)	スワヒリ語初級2	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究 2	形態統語論基礎演習	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドワーク 1	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドワーク 2	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	秋
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語(英語III-7)	経済思想を読む	春
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語(英語III-8)	世界経済グローバル化の歴史	秋
出町一恵	世界教養プログラム	AI・データサイエンス1	分析道具としてのデータサイエンス入門【DS102】(リレー講義)	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論2	国際金融概論	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 I	国際経済学 I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 2	国際経済学 II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習 1	国際経済論(専門演習) I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習 2	国際経済論(専門演習) II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業研究演習 1	国際経済論(卒業論文) I	春
出町一恵	国際社会学部	卒業研究演習 2	国際経済論(卒業論文)	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業研究	国際経済論(卒業論文)	通年
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 3	Research Seminar on Japanese Finance History	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 4	Research Seminar on Global Development	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎A	サステナビリティ研究基礎 A	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎B	サステナビリティ研究基礎 B	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI[新]	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI[新]	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Sustainability Research Advanced Practicum III	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Interdisciplinary Seminar III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II[新]	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II[新]	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	協働分野セミナーIII	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	Sustainability Research Advanced Practicum III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	協働分野セミナーIII[新]	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	Sustainability Research Advanced Practicum III[新]	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習IV	Sustainability Research Advanced Practicum IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習IV	Sustainability Research Advanced Practicum IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論1	音声学基礎	春
中川裕	言語文化学部	音声学概論2	音韻論概説：音素・索性	春
中川裕	言語文化学部	卒業研究演習1	音声学・音韻論卒業研究演習	春
中川裕	言語文化学部	卒業研究演習2	音声学・音韻論卒業研究演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業研究		通年
中川裕	言語文化学部	音声学演習1	音声学演習1	春
中川裕	言語文化学部	音声学演習2	音韻論演習	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究1	音声学・音韻論セミナー1	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究2	音声学・音韻論セミナー2	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学1	音韻類型論セミナー1	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学2	音韻類型論セミナー2	秋
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学1	言語使用を基盤として文法を考える：理論と方法	春
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学2	言語使用を基盤として文法を考える：新たな展開	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語1	マダガスカル語	春
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語2	マダガスカル語	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論3	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論4	言語学概論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究演習1	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究演習2	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究	言語学卒業論文	通年
箕浦信勝	言語文化学部	言語学3	形態論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学4	統語論入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習5	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習6	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学1	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学2	言語記述研究	秋
武内進一	国際社会学部	国際政治概論1	国際協力の史的展開	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論2	アフリカの紛争と平和構築	冬
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習1	国際社会の思想と行動A	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習2	国際社会の思想と行動B	秋

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習1	卒業論文演習I (国際協力論)	春
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習2	卒業論文演習II (国際協力論)	秋
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17	現代アフリカ政治	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18	国際関係論における開発	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 1	IDEAS国際開発論講義(1)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 2	IDEAS国際開発論講義(2)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 3	IDEAS国際開発論講義(3)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 4	IDEAS国際開発論講義(4)	秋
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文指導	春
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文指導	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎A	サステナビリティ研究基礎 A	春
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎B	サステナビリティ研究基礎B	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	協働分野セミナーIII	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	協働分野セミナーIII	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	協働分野セミナーIV	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	協働分野セミナーIV	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	協働分野セミナーV	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	協働分野セミナーV	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	協働分野セミナーVI	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	協働分野セミナーVI	春
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	春
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	春
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	サステナビリティ研究先端演習III	春
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習III	サステナビリティ研究先端演習III	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習IV	サステナビリティ研究先端演習IV	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習IV	サステナビリティ研究先端演習IV	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
宮本佳和	国際社会学部	アフリカ地域研究2	アフリカ政治人類学	秋
宮本佳和	国際社会学部	国際協力論2	モビリティ、移民、トランスナショナルリズムの文化	秋
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語 (英語II-2)	African Politics and Society through African Literature and Film	春
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語 (英語II-7)	African Politics and Society II	秋

## 5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動

教員名	機関名	学部等	科目名	開講時期
石川博樹	青山学院大学	文学部史学科	東洋史特講	春・秋
石川博樹	早稲田大学	商学部	地域の歴史	春
石川博樹	慶應義塾大学	商学部	歴史II「現代社会のなかのアフリカ史」	秋
石川博樹	放送大学	東京渋谷学習センター	アフリカ史のなかの女性たち	集中講義
大石高典	早稲田大学	文学学術院	人類学特論2	秋
大石高典	上智大学	大学院グローバル・スタディーズ研究科	生態人類学	秋
大石高典	早稲田大学	文学学術院	修士論文学位審査	秋
加藤珠比	青山学院大学	地球社会共生学部	地域経済/アフリカ諸国戦略研究	春
加藤珠比	群馬県立女子大学	国際コミュニケーション学部	アフリカの社会と文化	春
加藤珠比	追手門学院大学	国際学部	国際開発支援論/国際開発支援特論	春・秋
加藤珠比	立教大学	コミュニティ福祉学部	地球コミュニティ論/コミュニティデザインゼミ	春・秋
加藤珠比	東北公益文科大学大学院	公益学部	移民・難民論	秋
加藤珠比	明治学院大学	国際学部	社会開発論/基礎演習	春
加藤珠比	明星大学	教育学部他	英語B	春・秋
加藤珠比	淑徳大学	教育学部他	コミュニケーション英語	春
椎野若菜	上智大学	総合グローバル学部	特講（アフリカの家族と親族）	秋
品川大輔	国際基督教大学	教養学部	形態論	春
品川大輔	国際基督教大学	教養学部	言語類型論	秋
武内進一	アジア経済研究所	開発スクール（IDEAS）	History of International Development	10～11月（全5回）
武内進一	学習院女子大学		「ルワンダのジェノサイドとそれから」	

### 5.2.3. 修士・博士論文指導

#### a. 修士論文（東京外国語大学）

指導教員	論文タイトル	論文執筆者
椎野若菜	中国農村における結婚と家族再生産戦略—河北省農村にみる高額婚資問題の再検討	ハク ブンウ
中川裕	Categoricity and Gradience in General American English /I/	森田大輝

#### b. 博士論文

指導教員	主/副	論文タイトル	論文執筆者	提出大学
品川大輔	副	南琉球宮古語久松方言の文法	陶天龍	東京外国語大学
武内進一	副	“Research on the current situation of elderly services in China: Focus on home-community elderly care under the policy of integrated elderly care and medical services”.	楊非凡	東京農工大学
武内進一	主	Migration, Bounded Precarity, and Local Governance in Japan (1980s–2020s): The Case of First-Generation Immigrants in Koga and Toride, Ibaraki Prefecture	Brandon Bodenstein	東京外国語大学
武内進一	主	Energy Transition Policies in China: Analysis from the perspective of social equity and energy justice	Xiyu Wang	東京外国語大学

### 5.3. 対外活動、社会貢献

#### 5.3.1. 外部機関からの委託業務

研究者名	組織・機関	業務	期間	備考
石川博樹	国立民族学博物館	共同研究員	2023年4月1日～ 2026年3月31日	「アフリカの人びととはいかに「アフリカ史」を語ってきたか：アフリカのローカルな歴史からみた「アフリカ史学史」（代表：中尾世治）
大石高典	生き物文化誌学会	共同研究員	2025年4月1日～ 2026年3月31日	学会運営
大石高典	総合地球環境学研究所	評議員	2025年10月1日～ 2026年3月31日	「エンカル経済に向けて：商品貿易と消費が先住民の土地と生存に及ぼす影響への対処」（代表：Nguyen Tien Hoang）
大石高典	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	共同研究員	2025年4月1日～ 2028年3月31日	「身体性の人類学（2）—脱／再身体化のダイナミクス」（代表：床呂郁哉）
Ohsoon Yun	韓国・釜山 Global Yeongdo Coffee Festival	コーヒー外交	2025年5月23日～ 2025年5月25日	在韓エチオピア大使館エチオピア国家館ブース運営支援（大使・関係者参加）
Ohsoon Yun	東京外国語大学アフリカ専攻	ファシリテーター	2025年6月	東京外国語大学アフリカ・ウィーク「ルワンダ・デー」ファシリテーション（アフリカ・ウィーク実行委員会および学内学生団体Femme Caféと連携）
Ohsoon Yun	東ティモール・コーヒー協会	国際審査員	2025年11月	東ティモール・コーヒー協会招聘 Festival Kafé Timor 2025 参加（2025年収穫ロット品評会および東ティモール・エアロプレス選手権国際審査員として参加）。
Ohsoon Yun	大阪・関西万博	VIPゲスト	2025年10月3日	大阪・関西万博 エチオピア・ナショナルデー参加（VIP招待）。
佐藤千鶴子	日本アフリカ学会	理事	2024年4月1日～ 2026年3月31日	会計担当
佐藤千鶴子	ジェトロ・アジア経済研究所	研究会委員	2025年7月1日～ 2026年3月31日	「サハラ以南アフリカ現代史の『重大な岐路』」研究会（代表：佐藤章）
佐藤千鶴子	JICA緒方貞子平和開発研究所	研究分担者	2025年7月1日～ 2028年3月31日	研究プロジェクト「アフリカにおける人の移動と人間の安全保障」
椎野若菜	国立民族学博物館	共同研究員	2025年10月～2028年3月	現代のジェンダー／セックス／セクシュアリティをめぐる共時的なグローバル現象と人類学（代表：國弘暁子）
武内進一	日本アフリカ学会	会長	2024年4月1日～ 2026年3月31日	学会運営

武内進一	一般財団法人戸田国際財団	理事	2025年1月～2027年 3月	理事会、評議員会への出席
中川裕	日本語学会	評議員	2025年4月1日～ 2028年3月31日	学会運営
宮本佳和	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化 研究所	共同研究員	2025年4月1日～ 2028年3月31日	「挑戦性の人類学：現代アフリカを生きる実 践の探求」（代表：緒方しらべ）

### 5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応

対応者名	ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考（テレビやラジオへの出演の放送日など）
石川博樹	その他	TBS Podcast「ママタルトの地球ディッシュカバリー～東京外大の先生と一緒に～」	「神秘と伝説が息づく国エチオピア」出演	2025年11月4日公開
大石高典	ラジオ	ラジオTAMAリバー 87.4MHz「アッチャーラジオ」	「インドや世界についてちょっと詳しくなれるラジオ 第87回：大石高典先生」出演	2026年1月13日放送
大石高典	テレビ	テレビ東京「世界の給与明細」	「【あなたの給料いくら？と世界中で大調査！衝撃(秘)お金事情】第2弾」出演	2026年1月19日放送
大石高典	その他	ココヨ「WORKSIGHT」	「ジビエの「外」を見渡す：人類学者に尋ねた狩猟と獣肉の現在」インタビュー記事の配信	2025年5月27日配信
武内進一	新聞	South China Morning Post.	”Why Japan is pushing a transparent, ‘human-centred’ development model for Africa.”	2024年5月4日
武内進一	その他	共同通信	“TICAD (News Focus) FOCUS: Experts urge Japan to bolster Africa partnership amid China, U.S. moves”	2024年7月15日
中山 俊秀	雑誌	マガジンハウスan-an No.2462	「母国語とは違う考え方、体の使い方を知ること」に関するインタビュー	
中山 俊秀	新聞	朝日新聞Globe+	「ガラスはもろい？もろくない？ SNSは言葉の実験場、AIがもたらす変化は」に関するインタビュー	

### 5.4. 外部資金の獲得

#### 5.4.1. 代表者

代表者名	資金名	資金提供元	期間
石川博樹	科学研究費 基盤研究 (C) 「エチオピア食文化研究：調理器具・食器、オロモの食のキリスト教徒の食への影響」 (課題番号：25K04476)	文部科学省・日本学術振興会	2025年4月1日～2028年3月31日
大石晃史	科学研究費 基盤研究 (C) 「紛争の拡散ダイナミクス：感染症モデルを用いたネットワーク科学的アプローチ」 (課題番号：23K01277)	文部科学省・日本学術振興会	2023年4月1日～2027年3月31日
大石高典	科学研究費 基盤研究 (C) 「カメルーン東南部の多民族社会における人口・土地利用・森林資源利用の長期動態」 (課題番号：24K15429)	文部科学省・日本学術振興会	2024年4月1日～2027年3月31日
坂井真紀子	科学研究費基盤研究 (C) 「グローバル化する現代アフリカにおけるローカル市場の社会的研究」 (課題番号：24K15453)	文部科学省・日本学術振興会	2024年4月1日～2028年3月31日

佐藤千鶴子	科学研究費 基盤研究 (C) 「南部アフリカにおける移民のトランスナショナルな社会的紐帯と家族形成」 (課題番号: 21K12399)	文部科学省・日本学術振興会	2021年4月1日～2026年3月31日
椎野若菜	科学研究費 基盤研究 (B) 「現代東部アフリカ社会をゆるがすセクシュアリティ・結婚の変容とシングル化」 (課題番号: 22H00769)	文部科学省・日本学術振興会	2022年4月1日～2027年3月31日
品川大輔	科学研究費 基盤研究 (B) 「パラメーター連動に基づくバントウ諸語類型論: 多様性と普遍性の原理的理解に向けて」 (課題番号: 23K25319)	文部科学省・日本学術振興会	2024年4月1日～2028年3月31日
武内進一	科学研究費 国際共同研究加速基金 (海外連携研究) 「アフリカ国家建設の比較研究: 担い手、手法、成果」 (課題番号: 24KK0024)	文部科学省・日本学術振興会	2024年10月1日～2028年3月31日
武内進一	科学研究費助成事業 (基盤研究(A)) 「アフリカ国家論の再構築—農村からの視点」 (課題番号: 21H04390)	文部科学省・日本学術振興会	2021年4月1日～2026年3月31日
中川裕	科学研究費 挑戦的研究 (開拓) 「カラハリ狩猟採集民の持続可能な識字活動の基盤」 (課題番号: 22K18249)	文部科学省・日本学術振興会	2022年6月30日～2027年3月31日
宮本佳和	海外発表促進助成 「Negotiating the sacred: War, ancestral taboos, and wildlife conservation in north-west Namibia」	公益財団法人日本科学協会	2025年8月20日～8月22日
宮本佳和	科学研究費 若手研究 「祖先の土地の生成に関する人類学的研究—ナミビア牧畜社会の伝統的権威と国家」 (課題番号: 23K12351)	文部科学省・日本学術振興会	2023年4月1日～2027年3月31日

#### 5.4.2. 分担者

分担者	資金名	資金提供元	代表者名	期間
大石晃史	科学研究費 基盤研究 (B) 「サイバーフィジカル融合のもとでのグローバル・ガバナンス: 持続可能な平和を目指して」 (課題番号: 23K22087)	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人 (東京大学)	2022年4月1日～2025年3月31日
大石高典	科学研究費 基盤研究 (C) 「パフォーマンスによるフィールドの共創的再現: 人類学的教育実践の協働と展開」 (課題番号: 24K04451)	文部科学省・日本学術振興会	飯塚宜子 (京都大学)	2024年4月1日～2027年3月31日
大石高典	科学研究費 基盤研究 (B) 「焼畑による地域資源の活用と創出: 日本各地の焼畑復活から描く食・森・地域の再構築」 (課題番号: 21H03697)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治 (京都先端技術大学)	2021年4月1日～2026年3月31日
大石高典	科学研究費 基盤研究 (B) 「フィールドワークとフィールド実験によるホモルーデンス論の展開」 (課題番号: 20H01409)	文部科学省・日本学術振興会	島田将喜 (帝京科学大学)	2020年4月1日 - 2025年3月31日
佐藤千鶴子	科学研究費 基盤研究 (A) 「アフリカ国家論の再構築—農村からの視点」 (課題番号: 21H04390)	文部科学省・日本学術振興会	武内進一 (東京外国語大学)	2021年4月1日～2026年3月31日
佐藤千鶴子	科学研究費 国際共同研究加速基金 (海外連携研究) 「アフリカ国家建設の比較研究: 担い手、手法、成果」 (課題番号: 24KK0024)	文部科学省・日本学術振興会	武内進一 (東京外国語大学)	2024年9月9日～2028年3月31日
椎野若菜	科学研究費 基盤研究 (B) 富の体現、再配分政治に対する実践とアセンブリ形成: アフリカ都市中間層ボトムの研究	文部科学省・日本学術振興会	白石壮一郎 (弘前大学)	2024年4月1日～2026年3月31日

品川大輔	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) "Microvariation in Bantu languages of South Africa: building theories from typology data" (研究課題/領域番号: 21KK0005)	文部科学省・日本学術振興会	李勝勲 (国際基督教大学)	2021年10月7日～2027年3月31日
品川大輔	基盤研究 (A) 「アジア・アフリカのフィールド資料の研究資源化: 言語研究の新地平の開拓に向けて」 (課題番号: 25H00465)	文部科学省・日本学術振興会	呉人徳司 (東京外国語大学)	2025年4月1日～2030年3月31日
中川裕	科学研究費 基盤研究 (S) 「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築」 (課題番号: 22H04929)	文部科学省・日本学術振興会	高田明 (京都大学)	2022年4月27日～2027年3月31日
中川裕	科学研究費 基盤研究 (B) 「現存言語資料の適正資源化: データ管理体制確立と資源再活用モデル構築」 (課題番号: 23K25318)	文部科学省・日本学術振興会	加藤重広 (北海道大学)	2024年4月1日～2027年3月31日
中山俊秀	科学研究費 基盤研究 (B) 「危機言語コミュニティにおけるNew Speakerの育成」 (課題番号: 24K00069)	文部科学省・日本学術振興会	横山晶子 (人間文化研究機構国立国語研究所)	2024年4月1日～2028年3月31日
宮本佳和	科学研究費 基盤研究 (A) 「気候危機ナラティブに対するアフリカ遊動社会研究からのカウンターナラティブの形成」 (課題番号: 23H00031)	文部科学省・日本学術振興会	湖中真哉 (静岡県立大学)	2024年4月1日～2028年3月31日
宮本佳和	科学研究費 国際共同研究加速基金 (海外連携研究) 「アフリカ国家建設の比較研究: 担い手、手法、成果」 (課題番号: 24KK0024)	文部科学省・日本学術振興会	武内進一 (東京外国語大学)	2024年9月9日～2028年3月31日
宮本佳和	科学研究費 挑戦的研究(開拓) 「先住民の権利学の構想—南部アフリカの二つの事例を中心に」 (課題番号: 25K21643)	文部科学省・日本学術振興会	梅屋潔 (神戸大学)	2025年6月27日～2030年3月31日
宮本佳和	科学研究費 基盤研究 (B) 「エネルギーの人類学: アフリカの再エネ開発が地域社会に与える影響に関する比較研究」 (課題番号: 25K00565)	文部科学省・日本学術振興会	内藤直樹 (徳島大学)	2025年4月1日～2028年3月31日

### 5.5. 受賞

受賞者名	受賞名	受賞された団体	受賞日付	掲載HP (URL)
Ohsoon Yun	"国立アジア文化殿堂 (韓国) 館長表彰受賞 (アジアコーヒーロード公開講座企画・実施に対する功績)	国立アジア文化殿堂 (韓国)	2025年12月31日	